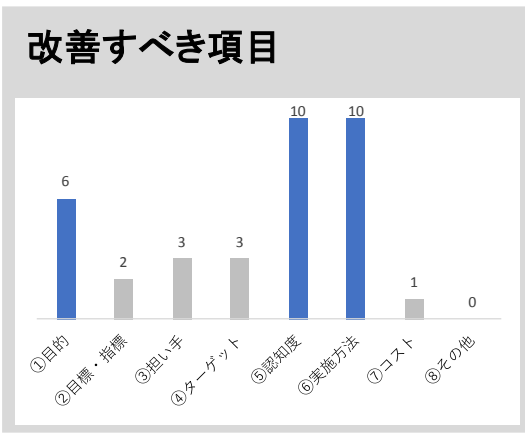


事業の名称	図書館事業		
部名	生涯学習部	課名	図書館
事業の目指すべき姿	市民がライフステージに応じて必要となる知識・情報等を、「いつでも、どこでも、だれでも」自由に利用できる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与する。		

総合評価	<h1>改善すべき</h1>
評価結果	

各評価人の評価	
よく取り組んでいる	0人
改善すべき	8人
大いに改善すべき	2人
廃止すべき	0人



評価人の意見

(1) 認知度
 図書館は、市民に学習機会を提供する市の大事な公共施設である。そのため、できるだけ幅広い世代、特に若い世代にも活用、認識してもらえよう、周知を適切に行ってほしい。

- ・特に利用者が少ない若者に対し、図書館の魅力について、効果的に発信する必要がある。

改善の基本的な考え方

(1) 認知度
 未就学児から小学生までに比べ、中高生の利用が少ないため、若者をターゲットにした、図書館に足を運んでもらえるような情報発信等を行っていく。

事業所管課の改善に向けた具体的な取組

(1) 認知度
 ①今まで以上に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットや市ホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、地区協議会や観光コンベンション協会などと連携したPR活動を進める。
 ②2020年1月に実施したホームページの更改に合わせ、掲載している写真を見やすく明るいものに差し替えた。これらをTwitterなどのSNSで発信する。
 ③要望が多い学習室の充実について、集会室などの既存スペースを有効活用し、2019年度から提供を開始した中高生のグループ学習用スペースの提供期間を拡大する。
 ④中央図書館5階のヤングアダルトコーナーについて、机と椅子を刷新すると共に数を増やし、中高生向けに勉強目的でも図書館を利用できるよう若者の優先席を増やした。愛称をTEEN LIBRARYと称し、中高生が利用したくなる図書館を目指している。

目標

指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)
①連携して行うPR活動件数(年間)	①1件 (2020年3月)	①3件 (2022年3月)
②SNS発信回数(年間)	②81回 (2020年3月)	②120回 (2022年3月)
③中高生へのスペース提供日数(年間)	③18日 (2020年3月)	③50日 (2022年3月)
④中高生向け勉強スペースの設置	④— (2019年11月)	④設置完了 (2020年1月)

結果

実績値 (時点)	取組内容

(2) 目的・実施方法

同じ生涯学習施設である図書館と生涯学習センターの連携について、契機ととらえて検討してほしい。

図書館の機能、利用方法、運営方法については可能性がただけに様々な期待がある。将来を見据えて、図書館の本来機能に加えて、特色があり地域に愛される新しい図書館を考えてもらいたい。

- ・図書館本来の機能を充実させるなどして、利便性を向上させる必要がある。
- ・地域に密着した特徴ある図書館にするとよい。

(2) 目的・実施方法

図書館本来の機能である情報提供を充実させるとともに、地域の特色を活かし、図書館により多くの市民が愛着を持って利用してもらえる方法を検討し、実施する。

開館日・開館時間拡大等による利便性の向上も検討する。

(2) 目的・実施方法

①市民からの要望が多い、開館日、開館時間の拡大を検討する。

- ・特に、駅に近接し、多くの通勤・通学者の利用が見込まれる、中央図書館と鶴川駅前図書館における開館日時の拡大について検討を進める。

②近隣の自治体との相互利用を拡大することで、実質的なサービス拠点を増やし、市民の利便性を向上し、より多くの読書機会の創出を実現する。

③地域活動サポートオフィス※や地区協議会、生涯学習センターなどと連携し、地域で活動する人材を育成するための講座を開催する。

※地域活動サポートオフィス: 町田市を拠点に、まちの困りごとに取り組み担い手をサポートする組織

目標

指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)
①開館日時の拡大	①— (2020年3月)	①実施 (2022年4月)
②相互利用の拡大(累計)	②9市 (2020年3月)	②10市 (2020年11月)
③受講者数(累計)	③— (2020年3月)	③30人 (2022年3月)

結果

実績値 (時点)	取組内容

(3) 担い手

将来を担う若者の声も大事にしながら、多様化するニーズに対応するため、行政だけではなく大学、市民、民間事業者など、みんなで担っていき、地域から愛される図書館にしてほしい。

- ・サービスの充実や効率化を促進するために、民間活力の活用を検討する必要がある。
- ・より市民ニーズに沿ったサービスを提供するため、地域の大学や市民ボランティアなどと連携する必要がある。

(3) 担い手

より効率的・効果的な図書館運営をするための民間活力の活用等、市民や民間と連携してよりよい図書館となるよう、ニーズを踏まえたうえで、それぞれが担える部分について検討し、実施する。

(3) 担い手

①2020年2月に策定した「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に基づき、民間活力導入のメリット・デメリットを見極め、他の地域館の運営の方向性を定めるため、2022年度に鶴川駅前図書館に指定管理者制度を導入し、その導入効果を測る。

②市民の読書活動の拡大と関連団体の育成のため、地域文庫や大学図書館、ボランティア団体との連携を強化する。

- ・ボランティアの交流会等を企画し、ボランティア同士のつながりを深め、活動の活発化を支援する。

③若者のニーズを把握するため、高校生が図書館事業に参加できる仕組みを検討する。

目標

指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)
①民間活力の活用	①— (2020年3月)	①民間活力の導入 (2022年4月)
②ボランティア講座参加者数(累計)	②118人 (2020年3月)	②200人 (2022年3月)
③仕組みの検討	③— (2020年3月)	③検討完了 (2021年3月)

結果

実績値 (時点)	取組内容